
一匹のバクと一人の少女

アノム（黒音レコ）

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一匹のバクと二人の少女

【Nコード】

N8810X

【作者名】

アノム（黒音レコ）

【あらすじ】

『夢喰い白黒バク』

都市伝説と化した事件

その裏には一人の少女が関わっていた

彼女は知らない、バクが願っていること・・・

『

作者の勝手な解釈で『夢喰い白黒バク』というレンの歌を小説化したものです。

なぜか恋愛系になってきました・・・(汗

イメージ崩したくない場合は見ないことオススメします。

少女の願い（前書き）

—— 知ってる？ 『夢喰い白黒バク』 って話

嗚呼、今夜は満月・・・

ああ！ 知ってる！ 《満月の夜に夢を食べていく人の話》 ね！！

何で・・・

今日は満月よ・・・ 誰の夢を食べてしまうのかしら？

何で私の夢は食べてくれないの・・・！！

少女の願い

私は琥珀。^{コハク}

長年患者をしていることにより夢を持つことを諦めてた。

そんな時お見舞いに来た友達が行った。

「あのねっ！私、好きな人ができたのっ！『夢喰い白黒バク』って男の子なんだっ！！」

彼女の名前はミク。

私にとって一人しかいない友達。

ミクが恋をするなんて・・・

でも、『夢喰い白黒バク』って聞き覚えが・・・
何でだろう？

——悪夢を喰らいにきてくれたのっ！！——

ミクの一言で思い出した。

『夢喰い白黒バク』

彼（？）はどこから来たのかも、どんな姿をしているかもわからない。

知るのは会ってから満月になるまでの間の人のみ。
夢を喰われた人々は口を揃えて言う。

——世界が白黒で何も感じない——

夢がないからそう見える。

でも、夢を見ることを忘れた私は何でカラーで見えるのだろう・・・
まだ期待してるの？

自分自身が約一ヶ月後に死ぬと分かっけていても？

・・・ミクにはモノクロな世界を見て欲しくない。

でも、どうすればいい？

ミクは知らない『夢喰い白黒バク』の話・・・

そして、今日は満月の日・・・

きつとミクの夢が食べられる・・・

ミクの綺麗な夢が・・・

——夢のない私にとって大切な夢・・・！！

——守りたい！！！！

「琥珀？どうしたの？」

ミクは不思議そうに見てきた。

「・・・なんでもない」

私は素っ気なく返した。

本当は『夢喰い白黒バクは夢を喰らうやつなの！』って言いたい。
でも、ミクは知らなくていい・・・

私がミクのために何かするんじゃないかって心配かけちゃう

「でも泣いてる・・・」

私の目からは涙がぽたぽたと落ちていた。

これじゃあ余計に心配かけちゃうよ・・・

「・・・別に。私も恋がしたかったなっと思って」

涙を流しながら私は言った。

——ミク、君は知らなくていいことなんだ。だから・・・

『夢喰い白黒バク』、いや『バっくん』と関わらないで・・・

その願いは次の日に崩れた

少女の願い（後書き）

レン：ここは変わらずだなw

主：名前は某アニメのアイテムの名前からとってきた

琥珀：何かかつこいい名前だな・・・／／／

主：レンたちは置いていて、っと・・・

レン：置いてくな！！

主：今回は勝手な解釈小説を読んでき・・・（スルー

琥珀・主：ありがとうございました

琥珀：えゝこれからも頑張って出しますんで暇であれば見てください

主：それでは、ここは軽い挨拶にさせてもらってっと・・・

レン・琥珀：まったねゝ

バツくんの願い（すこし修正）（前書き）

「ねえ、バツくん」

「ん？」

「何で夢を食べるの？」

「それは――」

バツくんの願い（すこし修正）

ミクがお見舞いにこなくなった。

そしてバツくんの髪が少し”黄色く”なっていた。

髪が黄色くなる”誰かの夢を食^{イコール}べた。

その夢が綺麗であれば綺麗であるほど髪が黄色くなる。

いつもは変わったかわからないくらいしか変わらないのに、
ひと目で黄色くなったということがわかるほど染まってる・・・

「・・・バツくん」

私は彼を呼んだ。

彼は窓からひょいっと飛んできた。

「その呼び方やめてくれ、コーク」

コークとは私のこと。

コハクのハを^{ノバシ}に変えてコーク。

私的にも気に入ってる。

「バツくん、私の友達の夢食べたでしょ」

バツくん・・・違^ズうと言って・・・

「あ、うん。食べた。彼女の夢綺麗だったし」

いつもバツくんは期待を裏切る。

そして決まっ^ててこう言う。

「ボクには黄色い髪しか似合わないからね」

そんなの嘘に決まってる。

初めてあった時のバツくんは『夢を食べる夢喰いバク。けど君には命が限られている。最後まで食べずに一緒にいよう』って悲しそうだったもん

いつから慣れてしまったの・・・？

「コーク、今日はもう寝な。どんな夢がいい？」

「・・・ミクが見てた夢」

「・・・・・・・・いいよ」

ああ、何でバつくんは私にだ、け優し・・・・・・・・いんだ、ろ、う・・・・
「スースー・・・・・・・・」

「琥珀は知らなくていいんだよ・・・・・・・・ボクは”本当の夢喰い白黒バク”と契約して君を『生かして』いるんだから・・・・」

月からの願い（途中）（前書き）

—— お月様

—— 何だい？コハク——

バツくんは何で満月にしか食べないんだろうね

—— うゝん・・・教えちゃダメって言われてるから・・・ゴメンね
——

ううん、大丈夫。よくやられてることだし

—— でも、これだけは言っておくよ——

何？

—— バクはあんなことをする奴ではなかった。きっと何か理由がある
—— を・・・——

月からの願い（途中）

今日は月が綺麗・・・

お月様は今日も私を照らす。

バツくんは今日も

『ユメクイ白黒バク』の仕事をする

結末を知るのはお月様とバツくんと私だけ。

私もなんだかんだで神様に特別視されてるのかな・・・

・・・されてないね。

されてたら病気を治してくれるもん。

・・・何で不治の病にかかったんだろう。

かかる前日からバツくんはくるようになっていた。

そして任務通り満月の日に夢を取りにこようとした。

けど不治の病で二ヶ月しか持たないのを知ったら自分の話をするようになった。

バツくんに私の夢を食べてもらいたいのに・・・

そう言うバツくんは必ず「それでは意味がない」と言う。

何で意味ないの？

バツくんの目的は『髪を黄色に染め上げること』じゃないの？

わからない・・・

わからないよ・・・！！

——バクはそんなことしないよ。必ず理由がある——

いつ聞いたか忘れたけどお月様が言っていた。

『バクはそんなことしない』

なら何故バつくんはやっているの？

『必ず理由がある』

バつくんの目的は何？

あるときからずっと一緒だったのにわかんない・・・
わかんないよ！！！！

「・・・お月さん、コークは寝た？」

——ああ、泣きつかれて寝たよ——

「泣きつかれて、か・・・」

——君の目的が分からず、ずっとずっと泣いていたよ——

「・・・」

——目が覚めたときには近くにいてあげてね——

「ボクはバクだ。昼間は一緒にいられない」

——・・・バク、君は禁術を使おうとしてるよね？——

「なんでそれをつ！！」

——ボクは月だ。バクの世界だって見れる。そこで噂を聞いただけ
さ——

「・・・琥珀には黙っててくれ。琥珀はまだ知るべきじゃないんだ・

•
•
L

月からの願い（途中）（後書き）

またggggdなってるうっうっうっうっうっうっうっうっうっうっうっうっうっうっうっうっ

レン：うっさい

琥珀：お月様とバっくんの会話が主になってね？

それはわざとだ

琥珀が知らないだけでお月様とバっくんは知っているってことを伝えたかったしっ

レン：今回は怒ることとかせずに切り上げよう

琥珀：まったねっ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8810x/>

一匹のバクと一人の少女

2011年11月13日03時49分発行